

Blue Cyan Green Yellow Red Magenta White 3/Color Black



• 0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 1 2 3 4 5 6 7 8 9 20 1 2 3 JAPAN TAISHO

於
190
7

絲櫻春蝶奇縁卷之七

東都

曲亭馬琴編述

第十段

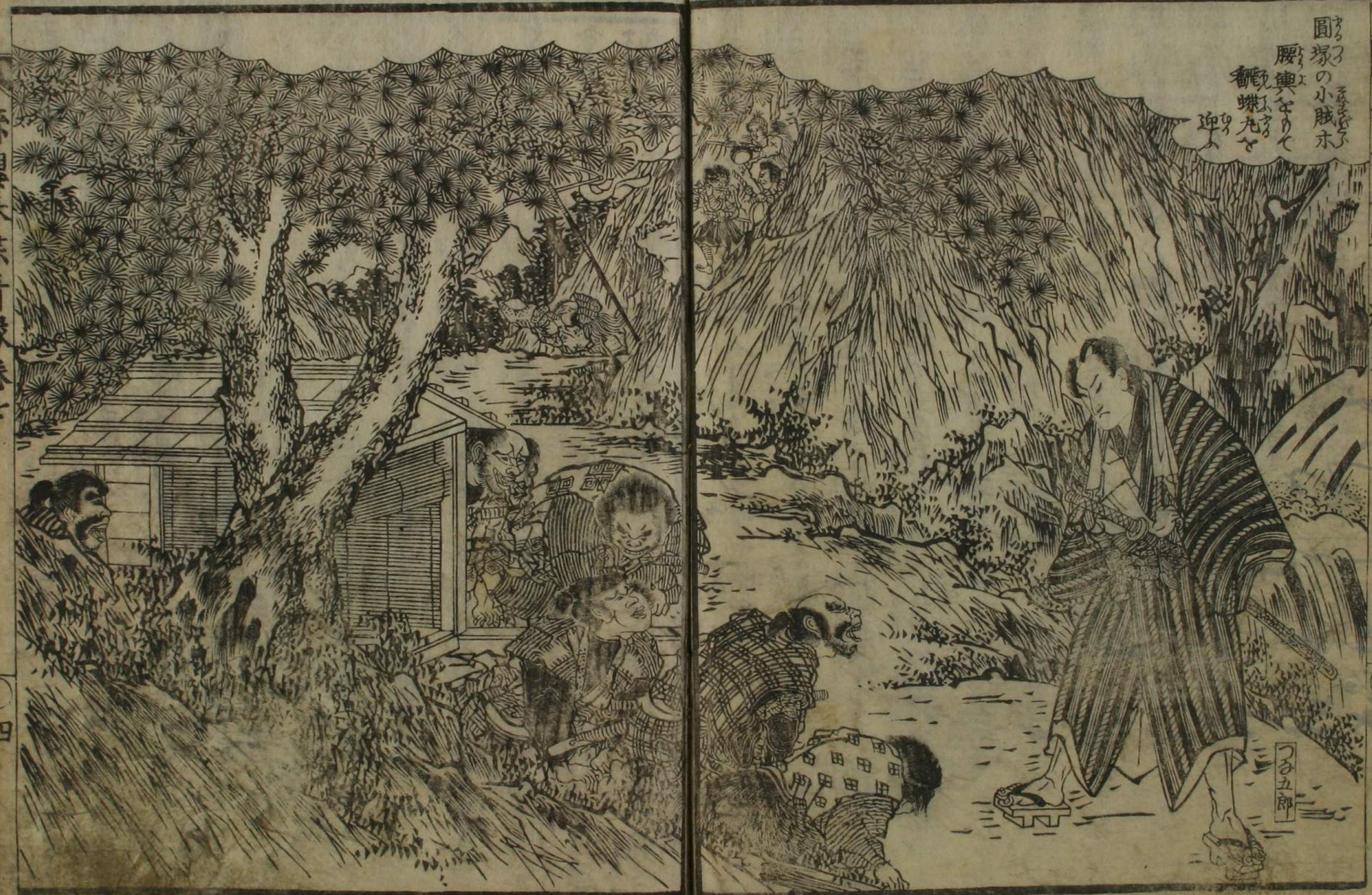
蝶丸單身賊寨よ到る

小絲兒再生虎穴よ出る

半晌黒平くろひら山魅伍平太やまとひらと凶激よきょせき。焉ゑ獨五郎ひとりごろうを懷裏いだて。日本にほんの怨うらみを復くす。
あじて後のち伍平太やまとひらを首級くびと扇谷殿おうやどへ献さり。緯ひの便宜えんをりて。文字じしめア
陣羽織ぢゆきを進すすむ。ちよ隨つづき賞たん賚かんを得とて。壯俊そうしゅんが長ながく富とく威けいと
兩ふたきよ。つよあくわくと肚裏はらうら不較計ふさいけい。算計さんけい大きおおで就すて翌日あさひや
綱立つなたて郎らうが。山魅やまとひらと。夜よ小膳こぜんを揃そろて。放ほどび伍平太やまとひらと耳みみ絆くわて。小賊こぞくと良よ
夜合よあわ山魅やまとひらと。令おこな。釋しめせ。軍師ぐんしと。進すすむ。各かく位い處して。愛あいつて。被は縫ぬい綱立つなたて郎らう
親ちか衛え。力ちからありて。義狂ぎきょうが剽姚ひょうようを兼まう。行ゆきすよ。やの如ごとき癖へ者もの。

單身である。車小まなびとせが。身方小病負多か。小敵にて戦ふ。夫大將を驕りて。あれを殺せば必勝。ニテ軍書先生の構築を。彼まで。這奴をも。あるとも。桃木へ。ひと動さで。懸念は。官待され。実不うちそれである。さう。と。之の由断と。窺ひ。懸大人を。暗号にして。盃と。擲り。そよと。伏兵一度よ起て。失くと。生拘ら。囊の中。多物を。よろ。易め。と。現示せ。小賊本へり。も。さと。伍平太。と。感佩。て。盃を。むろ。笑尾向。汝。木。かづくら。三。び草廬。と。ん。や。と。の。孔明。と。む。じ。や。僉。筵。で。黒平。が。斗。策。よた。が。と。か。と。綱五郎。を。生拘。と。祝。の。酒。醺。せん。腹。と。肥。て。脅。力。を。増。。拔。羣。う。勧。せよ。と。ふ。と。衆。皆。こ。う。る。て。酒。ハ。好。う。。絆。ま。れ。う。樽。蓋。の。腰。を。う。ら。授。。車。坐。と。居。え。て。彼。張。樊。が。當。飲。ふ。獻。つ。酬。つ。而。く。し。泥。の。妙。く。不。醉。臥。る。召。寐。り。羽。の。為。う。べ。さ。う。往。と。綱。五。郎。へ。伍。平。太。が。敵。悔。の。話。こ。う。な。が。と。お。ひ。く。も。入。ふ。物。と。ひ。み。られ。て。赤。の。じ。ぬ。俠。者。あり。べ。既。よ。彼。と。四。立。を。對。り。て。あ。く。べ。ト。リ。次。端。い。く。年。末。誠。を。あ。り。壯。伎。木。を。芝。崎。道。場。へ。に。裏。て。件。の。経。を。告。よ。け。れ。が。衆。は。同。ゆ。て。肩。相。よ。せ。彼。伍。平。太。へ。支。黨。の。小。賊。あ。り。と。あ。る。素。よ。う。養。は。付。信。を。も。の。ほ。も。わ。く。ざ。る。小。大。哥。を。慕。と。り。く。切。一。加。旃。故。る。し。て。今。猛。不。遠。く。ま。ん。と。い。も。ス。こ。う。な。が。と。あ。い。必。大。哥。を。彼。ひ。へ。班。引。よ。て。整。ひ。と。ん。と。う。す。よ。こ。そ。漫。よ。彼。外。へ。赴。き。あ。い。生。て。再。び。や。び。と。ん。を。る。べ。く。と。玄。衣。卷。て。整。ひ。と。ぞ。綱。五。郎。裳。赤。と。笑。も。つ。も。又。危。の。謀。と。と。下。め。下。う。こ。と。と。あ。れ。う。笑。う。と。ても。折。れ。て。る。や。う。ど。う。伍。平。太。ホ。よ。傷。ら。見。そ。の。極。威。を。す。と。た。け。よ。し。て。里。人。ホ。い。夜。を。ま。そ。と。睡。り。か。て。つ。こ。う。既。よ。決。せ。り。そ。孟。の。諫。言。を。す。と。ふ。ひ。と。す。る。氣。色。す。み。れ。ば。巨。大。憐。丁。と。つ。壮。伎。二。人。ひ。う。共。よ。班。と。出。大。哥。や。す。よ。も。ク。と。う。い。決。め。り。と。れ。お。防。ぐ。准。伎。併。肝。要。う。と。ん。今。推。量。す。伍。平。太。が。一。隊。へ。三。十。人。シ。ふ。五。き。る。じ。あ。ま。

又此方も。四十人の社役を擇り。こゝへれて赴き。とつせの果を細五郎へ。改め。左右より下掉て。管領より免許。夥の里人を藉催し。伍平太等と。戦を。功あへ。オの罪を。つけて。脅れん。も又うけ。引げし。一虎完。よ。虎を。後搏み。とよ。し。つと。單身か。て。被れ。赴き。竟よ。命を隕す。と。魅と組で死ん。残る。鳥合狗黨の小輩。伍平太。ま餐ひ。と。ば逐。とも。難敵あつて。里主。り。家よ。父母。ゐ。細五郎が。身を捨て。里人の為。旅客の為。よ。蠱害を除る。庶幾。と。うそ。運鶴。と。バ。と。どこの一生の別まる。酒盃。と。うほ。と。と。り。と。ぐ。と。あ。巨六。階丁。ハ。その勇敢。ふ。感伏。て。衆人。と。面をあわ。竟よ。晦。と。争ひ。練。ご。酒肴。を。安排。て。愈。こ。ろ。よ。く。酌。く。に。その。晦宵。よ。舞。つれ。ち。のく宿所へ。ゆ。り。却。説。細五郎。ハ。旦。内。十。午。周。ホ。ス。件。の。暮。あ。し。る。べ。陷。と。て。禁。あら。じ。と。て。ひ。と。圓。塚。山。へ。赴。き。り。さ。う。往。よ。む。懲。か。尔。候。の。小。賊。目。今。細五郎。が。ある。や。ん。て。ま。う。ぬ。つて。報。紹。一。ぶ。伍。平。太。猶。て。小。賊。十。八。人。を。禁。ふ。く。ざ。と。翻蝶丸。を。迎。る。そ。の。光。景。喇。叭。噴。咽。牧。笛。を。吹。る。し。洞。羅。大。鼓。を。うち。腰。輿。を。扛。き。旌。旗。傘。弁。を。ま。え。左。向。ら。く。る。し。と。金。遽。く。件。の。腰。輿。を。菓。の。上。よ。杠。房。を。恭。く。額。を。著。か。ス。田。の。大。哥。へ。便。え。あ。げ。ある。け。や。の。仁。風。草。を。摩。一。忝。く。も。光。臨。せ。う。と。ろ。て。伍。平。太。僕。木。を。遣。て。迎。ま。ん。と。そ。腰。輿。よ。め。され。ぬ。か。ま。れ。い。へ。と。異。口。同。音。よ。述。一。ぶ。細。五。郎。伝。く。見。て。こ。そ。考。く。る。官。待。く。る。り。う。で。汝。木。を。勞。と。ぎ。り。總。角。う。し。比。ひ。習。ふ。る。跡。よ。考。る。と。あ。う。



善入と善の居て。善入とあそびりのへ。是則 善入うり。悪入と善の居て。悪入と
善のへ。是則 悪入うり。安亦既よ先輩を傷て。遠く去んとひどい。管領
もう舊恩を免されうるよあふざれば。盜賊の名へ削ぎ。ざらへを繫白の使者
安亦が盜うて。貯うる腰輿ふきて。又母うる受うる刃を稼さんや。先へ退くことなる
す。伍平太よ告あきせよ。この。樹木多とつども。來生かへて高うだ。今
ゆよかうはるよ。といひて裳引わざて。桐の下駄を穿り。疾と飛ぐとくれば。
小賊ホヘ罕ミ果て半ハ矢をうちし半ハ綱立郎が背み跟て。ひと
づよ腰輿と昇吹鼓の音と停て。食後下そ喘だけ。やア一ぐ伍平太へ。五
支の小賊をねて。门外へ出迎。赤緒をたゞ。ひて速よ貴臨せらる。餘びこれよすくと
き。袖こうきへ。恭へ。後堂へぞ移る。當下綱立郎へひそ回つ。彼此をうるふ
丸木を手て。石を壁。綱代天井よ棟裏色て。香蒲を編て席とあそびど如くよ

翠巒やけにじて。綱度をども雅うるあり。又俗うるものあり。相馬内裡の二の
町ゆく。左右より廊下より布の幔幕を引ひ。内々入あまし籠てけりひ
そとを。あまづれを餐ん為ふこそ。と大うへ猪サあさ。うちえうのそ此も騒
がび。肩ある瓢ヒビをあらへ。すむと坐て伍平太ヒロタツ太うち對ひ齋セイうおの酒サケ。
和主シムシマへ餓別ヒヤツ。既ハシメテまのもひひつゞぐ。トヤハニ海の美味ヒミツを陳ツル。葛カ飾ハラフ
青シオ松マツ徳馬タケマの蘿ワ薺ウツバ之浦シマツブの蘿魚ワカツ。藻シダ食エる。ね魚ネカツりそ鄉食カントクるとも。稼ハラフ且アリう
入スル。受スル。乃シテ裳アラシをきのへ。食速ヒヤツよか太ヒロべ。里シテ稻イ盡ツルぬを送スル。全ゼンを乞ガフ。不營小
いそがせ。伍平太ヒロタツ太掌タツモうちのこそ。大歎ヒヤウにて壯急シヤウる。吾ガ们モノ既ハシメテ幼ヒト志シを改
ひそが。昔ハタチよき懇ハシマ白シロの人ヒトをうごめ。うごめ盜ハシマの然ハシマて。大歎ヒヤウの口腹ヒツクを猪サあ
假ハシマ蘇民ハシマスミの首途ハシマよ。送別ハシマの酒サケを酌ハシマ。りつ物ハシマを婦ハシマひら。贈ハシマられ。うそ瓢ヒビを
ひそが。まへとて藏ハシマて小賊ハシマ亦ハシマ盃盤ハシマをひそが。酒サケを温ハシマ者ハシマを添ハシマ。毒組ハシマを築ハシマ

山歌を唄ひ。衆皆奥を催せば。綱五郎へ此も擬議せど。巨盃を引受け。饋アガハ
さるふとま傾け。山魅は内シナと投て。長ちる腰刀をくらんで。星とり死抜ヒヌケ
野猪の肉の焼るを。刀尖カミを貫スルて。肴せんとそよかせば。伍平太酒ヨウヘイタをぐぬも喫で。
この威勢ノリは奇クニい。顔色土トのざシテするうて。時刻ドモも。暗号アムブへぬせど。黒平コウヘイ
幕の陰カギラ。締シテのすを覗クて。ひと廻シテくらドモ。其外ソニへかきつづける。終ミ
多ひうなぎて溜リす。も首ヤを下マす。伍平太ウエイハタへ尻目アヒメよせり。も。又アフちりうち
ちて。默然ククよう。時モ西ニの方カふあアうて。女子メイジの哭カクこゑ頻ハタハタやハタハタ。哀カミく吹キく
ぐ。綱五郎耳アマを側シテぞ。山魅シナを人ヒトへて。渠カミへそも何ナシぞと向むかへ。伍平太ウエイハタ答ハシは。續ツヨ
迷惑アマカシ忽ハリ色イロよ見ミ。現アマするぬるヌルヌルし。某アマつやく。あすごとの。その言禁アマシキ。
ひきアマ。経アマと。綱五郎アマハタへ衝アマハシと。房アマハシと。伍平太アマハタが領上アマヒヤウを。鷺アマハシの如アマハシく。不撞龜アマハシ。主人アマヒヤウ。
ちよね工アマヒヤウ。山鬼变化アマヒヤウ。ど。あ。あ。あ。あ。あ。案内アマヒヤウ。と。ら。ひ。つ。も。

右より刀を引きて。卧する牛の起る如く。足端そろて立あづ。声ともせへ
と赴き。その攻势。僅は二三紫ある。小兎を引ける事異る。伍平太へ質ふ
とされて。頃とも伸へぬ。鳩の豆を喙むと。又八九寸の爺婆が遺せり。のぞ
索うどく。腰を折る膝を嘗む。も膽仰きとひき。何容にてりと。ま
この為。傍よ小賊。木。吐嗟。とぞう。左驥。ご。黒平。幕の蔭下。眼を瞬り。舌を
吐き。あれ。累てせんと。をち。め。勅す。ひ。を生き。伍平太。過失せんと。防を。仕
兵。木。じよ。まんく。あく。縫。ご。僅は八九人の小賊。もしく。尻。眼。當下。綱
五郎。廊をうち。従う。臥房。とも。角。見。外。到り。紙障。を開放。を。縫。廻。折り
従う。竹簍子。停立。左。右。さく。かづ。擔。前。高。松。の。梢。よ。女子。とい。そ
挂。下。年紀。十六七。あん。ざん。長。う。黒。髮。さう。亂。背。ひ。ふ。筋。よ。れ。
地。上。五六尺。放。え。漸く。ふ。索。く。ひ。く。て。苦痛。い。ざ。も。あ。い。だ。容止。艶。妖。

萎る花より残り。樹上より白藤の枝とあるが彷彿す。綱五郎は元を
見。そらに嘆息。衣ひの腋より著る。伍平太をうなづいて。目今いと跡失
走。よ後前より女子を。ぐても汝へあらずといふや。五臍六腑を照らすといふ。
積りて立たぬ。汝が肚裏を。あとうとくかくぬ。壁言バカ士を惟
幕ふ隠して。聲さんと謀るとも。数も足不取戻の輩。おのせううう比獄院
敵挫を。易し。汝ひ且の如。この女子を掠奪する。明死よこれぞ。りふ
ぞ。と臂を攘し。養子の端へ額を搾著て責む。伍平太失声を。立され
果敢く。あくへ急せど。綱五郎へ高ゆふ。呵と。うち天ひ後方ふ立され
小賊ホセ。倍と。声を奇ど。汝ホこの木偶人主の尻の。すり。さく。
きどて女子の索と。釋て。手。枝ちうさう。入へ索の本を。とろて。徐ゆふ縄を。せ
二入へ女子を。楚と抱て。やどこる。入枝へよと残る。よと指揮して。遠く

柏と向上。それるる女子驚く。ばんび。スグ。ト。いを思ふせよ。つれ。汝を救へ
且く苦痛を。あ。と。の。向。小賊ホハ。娘で。女子を。枝ちうして。養子の上不
昇居。綱五郎へ。小賊ホセ。ひとく。小罵。使。件の女子を。女抱。せ。茱
劍を。と。湯を。飲。さまで。して。勧る。ふぞ。やく。りよ。と。も。おまへ。景
外に骨。立。立ち。と。流。疾を。掛ひ。綱五郎と。み。絆。ばく。ぐと
尺かく。と。づけ。よ。あ。ご。組。う。と。重。被。べき。不幸の中。ある。幸。あ。る。
唐余ふ。ふ。側。運。高。よ。女子。つ。と。素。と。う。山。賊。う。と。ぞ。が。み。田。石。町。は。俠。者
あ。つ。と。蘿。條。九。の。綱。五。郎。と。名。若。と。る。姿。あ。ぬ。人。世。よ。う。身。ま。ウ。下。仰。仰
の。ぞ。舊。里。と。あ。せ。よ。し。と。町。寧。よ。向。生。と。あ。ぐ。因。を。拭。ひ。轟。と。言。の。榮
ふ。考。る。も。い。と。恥。じ。づ。ぶ。み。良。人。あ。相。馴。よ。う。四。月。の。比。衣。あ。り。て。り。う。昔。よ
舊。里。を。ま。き。去。と。う。途。遠。う。ね。田。舎。よ。秋。す。で。旅。宿。と。か。と。ね。其。外。ふ。こ。

住まふ下緒のかとて良人よ挾被よ。夕こえてあるこのひの撃拂て追捕の
武士よ。弁ととてこゑく。良人の存亡走りゆべ。つゝへ矢庭よ囚れて。おの
外へはとあつやてこゑる。あゝ男が圓る。目を細て臥房の間人よおれど
お爲体盜賊の大將軍とをやまふ。や定る夫うと。もじでころをそよび
べた。特よつへと良人あり。一席ふぞよも。ねぐらを想忍び隙をうが腰と去
良人の先途と定めて。黄泉の客とまくわづ。づくも其死みて死をす。とぞよ
めのう情々ぬ。命も要安時す。すんでりつまうふ。情りどきの月のまことあ。
けへこまうが煩りと。締は假れ古音。遣責へ僅は眠とも。一室より。困窮られ
する人さへ隙うけまう。まうと後てやうべど。やくてまの人の疎骨ふ。そのゆ
男うひときめびよ。づくを卧房へ。居きせ。汝頃日病よれ。と。かづくも従つぞ
のう月の中院うへ。ある。御佛よ。て。けふさも。許せん。強顏汝がうちとみく。

実ふるびと待と。否とり。がくも足も。鄉著て。昔よ寐よ。モん。鷹といへばお
身の微偉玉を炊。桂を焼。飲食。衣。鴟。立。寝。締の。相続の。帳。衣服。み
物缺ど。そもそも。今宵へ放さ。意を決て。回報せよ。ど。ひく。むす。ゆつ。へを。
秘めんと。まくしが。忍ぶ。よ。甚。ご。声。ぞ。う。立。る。不。す。ふ。罵。ア。そ。枕。み。立。る。刀。を
搔。取。り。自。殺。せ。ん。と。ま。行。し。ふ。彼。も。亦。い。く。怒。そ。矢。廢。よ。又。そ。く。ら。薦。し。火。咎
を。廻。て。巻。や。す。た。著。や。や。ぞ。已。れ。よ。つ。れ。き。だ。せ。ん。活。と。こ。じ。み。ら。ひ。あ。ら。せ。ん。
か。の。ど。も。在。せ。と。敦。團。つ。衝。と。矛。と。起。て。障。子。を。曉。ひ。れ。つ。ぐ。と。そ。ぐ。や。く。簣。子。の
上。よう。庭。へ。撰。地。と。突。墮。して。小。賊。木。よ。綿。よ。糸。お。の。袖。よ。約。あ。げ。と。昨。夕。通。宵。今。朝
や。う。も。お。ひ。や。く。と。從。へ。と。そ。責。と。朽。ぎ。と。そ。も。ゆ。く。も。お。る。死。る。千。年。の。松。よ
負。難。と。比。十。八。公。ふ。一。足。と。ぬ。年。十。七。と。一。期。と。て。榮。赤。の。あ。と。滅。タ。ケ。の。を。と。お。り
決。て。死。せ。り。そ。び。ど。も。令。つ。れ。う。に。罪。障。の。う。れ。恨。み。ふ。る。が。ど。も。號。哭。る。声。の。洶



やくふ良入候せり。比このの麓を追捕の武士よりあと。小糸へ賣よ
生拘られて。狹七がうとあがとしよ。女へ又りはして。小糸を轢く奪ひとつされ。
件の追兵へゆきのぞ。詳よこせり。と遣られて。伍平太へひ見を向極
親方些放り。息絶してひきもどさ。その内追捕の兵へ管領の家隸
りん。かのじよの志と称す。隊卒木づわもよ。件の追兵を却し。小糸を
奪までまつて。下の外へ一切をもと尋ねり。と陳じれ。綱五郎冷笑ひ。扇
谷家の兵士。この山を盜賊の住所とあがべて。小賊亦よ却され。何容と
小糸を奪れ。述まじへこうるが。こゑへ必情由あがけ。且ど。あらざ
まも止み。安てのめぬを。故郷へゆき。とひしき。餓別せん為。あくびをあ
も。往日を暮さんや。小賊どもうちまご。魂を脱してよりてせる。臨てひつゝ
ゑ。ひ暮れのひつゝ。紫下びらを立つ。まへ宿もあぐ。速よ少

伍平太ふ向づてとあつる。そがま、ふ然止せり。彼追兵へ扇谷家の家
隸もあんまりが狹七を救ひてとひ。這奴ホシ知しやくを。あらゆど、ちんぎ
却山魅が寨へ奪き、毛ト。今よ縛ひ解ど。そぐとすれやうもあれ。狹七が
うよ悉く。お身も奇異まさかそれ。保友へ今よあらざともあらがうえ。
今も校さみうんとろいぐらへもるひ易けども。追兵の虚実定らぬ。よ
再会をいほじて。却狭七が為ふり戻。うて今がん身をねくやくれある。其の
主人十兵衛へ。老實モ。ワシ奴婦の兄こし。こうなりのあらざれど。ひ
ちたこと。彼は毎日早う。ワシ塵を守る。されば寂寥一くとも苗守を
あて。且く彼奴は獨び多精細。今ひとびに後ちのびくとある。あらん。と
叮嚀。又現示せざ。ト余へ推辞氣をも。狹七のあらばと。辭をひなて方す
と。要安時の別を惜れとて。りで恨む。けり。トナリナヒ。セ。怜憐。回答。

痛。不すのくもとと。譯えむ。も告ひ。と薄まること。生まよ。そし。下町へゐる
途とぞ。ひめ。日か奈を仰。追捕の武士の為体を。潤すふなげれど。
火急の難儀。又善惡も別ど。されもあるべく肩又頭。泣叫びるのみ。け
く。わたく。怨了とあらば。とつまうと。とがみて。あらべ。彼十兵衛も。狹七
妻と名告ひ。す。よや。同人あればと。舊里のう夫のう。必あられり。す。
やつともひい。ゆ。日も不。西没。十兵衛。立。母屋。今。ゆ。と。ちじて。行燈。灯。を。う。折。こ。そ。う。け。れ。と。御と
へ。阿恭。よ。今。身。珍客。と。う。よ。十兵衛。ひ。と。擡。こ。の。人。候。と。ぞ。じ。よ。
母屋の財主。あはせ。す。う。う。と。立。う。れ。ば。獨五郎。へ。う。う。微笑。し。履。脱。す
やう。お立。在。小糸。が。め。え。持。つ。阿恭。よ。の。女子。を。見。く。こ。み。し。て。と。ご。の。件。の
ふつた。種。の。情。由。あ。れ。ど。平。余。あ。り。ひ。ば。姨。ひ。も。こ。の。み。必。ち。し。よ。

うとひよそで十兵衛へ小糸せんとうら兵隊現其外も入らせよ片あく
そもあうざなるこまませと振るあつ。綱五郎と推るぐ。どくめくとて毫々と
笑み女子よあべ脇かぶ腰う。妻を委えびひが隨はせりつむねねとくづつ
練めハ穂ぬ檀那神りの風吹きてや。伽羅の油の香よ變てとの称譽めで
來あせ思按の外へ物怪の徵体。十兵衛が獲そんべ後をそくひりとおう
トくうけりつ仇よ歸ぬ痕綱よ。宿の浮寐鳥荒磯のねと塗のぬ外の意
おきのうを滑りし主人づくよ。小糸ハ偏痛けれどまくあうごともひう。
塵ふね棕毛ハ綱五郎へ差ひと思ひて十兵衛よ小糸がうへ委ねつ。辭別へ
ゆづけりがじく十兵衛へ綱五郎がこのひ弱女又情由あるをゆゑゆく密
やくひそめぬ。二トまぢやどひくと正首ふ歎詠してづく匱丁て背門へも出
まじ。親の名を向宿所をとす。初より卒倒し進せる。彼人の為母屋の為

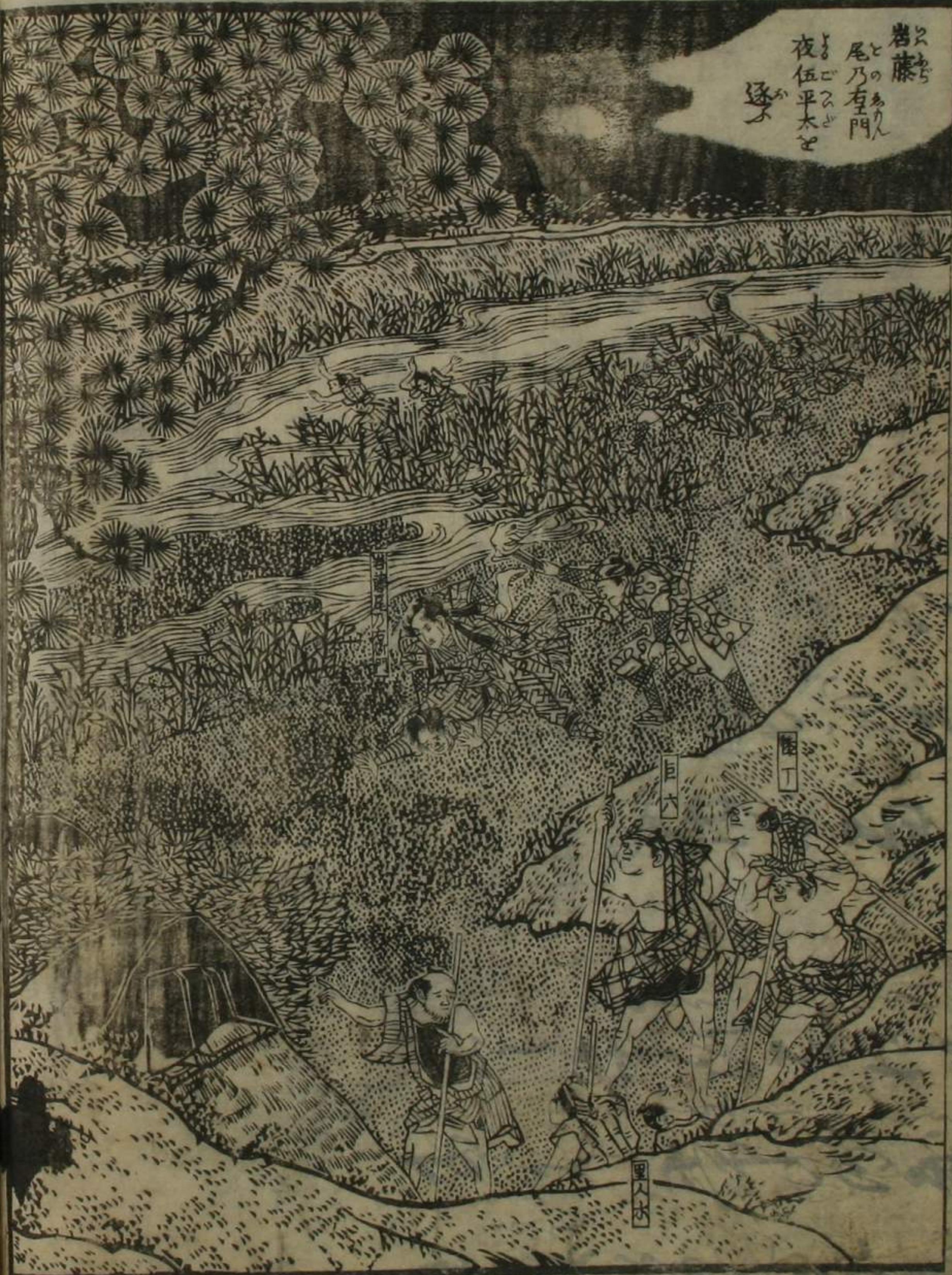
立よまで耽びし。ところ不トて次の日ふ只旦宵の密岩着り。

第十一段

黒平又遣て伍平太再商議モ
阿總ふ従て綱五郎婚姻と促モ

黒平が伎倆悉翻踏て三十餘人の山賊ホ綱五郎一人も折れ剥伍平太を擒
まし。小糸と石原山寨を燒き。金四零金へ落ス。半胸ハ云形勢小且
卑。小糸と石原山寨を燒き。大廈の倒木とどろき。一本の柱づらもあらず。
煙を潛り火と脱き辛くて麓まで。茫然と左在れ。小馬栗微ハ黒平
をかゝと見ゆ。潜びて山路に入る。黒平へ遠く。森て樹下を指ばれて。
綱五郎が事の経をちもうと告げし。伍平太ホが往方と向ば微ハ云
う。ひと摩。お懸る。山魅ハ小賊ホりうとも不。其後ホ又送られて阿闍
田河原のかく去。外を走り。となりを黒平呼。おぞ然う。直追蕙て。

岩 藤
と の お か ん
尾 乃 有 門
よ こ ひ ど
夜 伍 平 太 之
よ ひ と ひ し
逐



山魅とひそかれる。ぬまび商賈きえうべ。怨を復ヒトモあつさん。りれい
繞け。といひうて。あのぶへとた甲夜闇よ。喘く追蒐つ。その夜亥中の比及不
幸にして牛鳴モ。伍平太ホ又環会ノ。このよし山魅ハ。魏豫丸が友モの壯
俊ホ又追放され。穴を失ふ狐のエテ。巢を破す。る裏又似て。ぬらんとくる。
寨の焼き。きんとくる。ふ寄。て宿。暗を立在つ。こやうでも後ひなつ。
小賊ホと自異。死合。りふせき。と殺。まわ。半晌ハ微ハ。と。其外うき死りと
索。まつ。逃。て送。ゆ。びうけ。やとう。近。く。りしづ。黒平。腹。に。しま。山魅ホを
罵。れば。伍平太。ひじ。を搔。半晌。さの。腹を。も。勝。も。負。る。も。時の運。り。り。れ
折。あ。か。や。で。ふ。う。る。の。ある。の。秋。や。み。田人。又。達。と。阿。隅。田川。を。渡。と
と。死。ひ。ゆ。き。ぞ。扇。食。る。兵士。ホ。又。撞。見。て。敬。く。ふ。打。ま。れ。二十。餘。人。ハ。往
か。ま。ト。ど。残。る。此。彼。只。七。人。彼。兵士。の大。將。ハ。管領。の。家。縁。は。岩。藤。尾。乃。右。衛。つ
と。の。ゆ。の。ゆ。と。そ。が。れ。が。今。育。虚。と。と。よ。取。と。甚。危。り。り。ぐ。せ。ん。と
密。宿。ベ。黒。平。笠。て。冷。笑。ひ。余。と。本。宿。ヨ。レ。剥。さ。る。ふ。宴。ま。い。と。仰。げ。る。の。板
時。の。墓。と。松。上。へ。ゆ。る。の。ミ。今。う。更。物。と。あ。ん。や。累。る。死。の。緋。五。郎。這。奴
さ。ざ。よ。結。果。る。べ。扇。谷。の。岩。藤。尾。眼。室。外。て。深。掘。と。も。寂。聴。ん。と。と。易。一
あ。よ。一。の。術。計。あ。彼。緋。五。郎。が。ち。そ。く。而。ひ。い。ゆ。日。狭。七。を。援。よ。と。そ。内。塚
の。母。と。う。や。そ。砍。作。く。る。追。捕。の。武。士。を。管。領。よ。う。押。し。れ。る。兵。士。ま。ん。企。ま
り。然。ん。ふ。へ。夜。よ。紛。と。そ。這。奴。が。背。門。よ。う。乱。き。入。る。管。領。の。仰。よ。う。と
追。捕。の。兵。士。を。殺。く。る。罪。人。を。搾。捕。と。ゆ。り。つ。並。度。よ。う。闘。が。猛。と。り。不。も
緋。五。郎。ご。う。後。ま。て。傍。死。り。づ。怯。ひ。而。死。て。押。へ。八。重。九。重。よ。御。著。て。因。塚。山
引。搾。登。す。さ。づ。殺。よ。う。る。み。ぐ。此。へ。た。う。を。冷。よ。う。あ。ん。又。彼。狭。さ。と。不
奴。よ。う。内。の。管。領。家。憲。政。ゆ。の。老。黨。よ。う。神。原。矢。所。平。が。ひ。と。う。子。不

校五郎と。此の事。云々。ひハが亡妻。彼。彼五郎。が乳母。うー。と
徴。ハ。よゆる。ことあつた。か。禱。あ。のゆ。這奴。へ。近曾。謙。倉。あ。り。が。姨。を。砍
斬。小糸。を。奪。ひ。逐。電。て。且。假。名。川。よ。瀆。は。正。く。笑。て。此。彼。と。づ。く。
ひ。ゆ。それ。が。彼。小糸。を。當。初。つ。と。徴。ハ。と。あ。合。て。天。龍。川。の。や。ど。う。そ
勾。引。あ。る。女。の。童。ぞ。の。名。止。ひ。子。と。い。じ。り。そ。が。り。と。れ。ハ。狹。五。郎。ひ。び。姨。乃
仇。入。す。小糸。の。原。ひ。贋。物。う。律。の。序。よ。狹。七。と。斬。又。小糸。死。さ。復。そ。ぎ。
要。时。の。没。病。歎。く。ふ。足。と。び。又。扇。谷。の。管。領。よ。う。嚴。く。穿。そ。く。せ。ふ。そ。く。と。身。の
罪。贖。よ。一。物。あ。り。ひ。夜。な。う。じ。芝。崎。か。て。ひ。も。ふ。角。る。陣。羽。織。へ。罪。あ。り
の。も。斬。え。と。そ。豫。て。賞。錢。を。定。ま。り。彼。此。へ。令。ち。よ。まれ。る。文。字。よ。疑。ひ。
脱。且。と。く。へ。二。羽。織。を。管。領。へ。進。じ。て。夥。の。頸。と。続。ん。の。も。ひ。と。海。う。
う。ふ。疏。示。せ。れ。伍。平。太。へ。轍。の。射。の。水。よ。臨。ひ。糸。絞。て。う。ざ。ざ。の。大。息。吻。れ。こ。の。汁。

極く妙りづき圓屬よわじとれ。支黨廿人を二隊よつた。十人を官領の
兵士も打扱せ。常ふ麓も埋伏させて。一席あるれ客も。假軍兵とりて驚けし
輒く行李を奪せよる。独七どもんを推すう卷。小あく奪ひとせと。綱五郎
は教えられ。支黨二人を失ひあれ。あつるわけよ。綱五郎へ。たゞ小あよ名告
ひて彼兵士のむらわ。ひそかに竊よ疑ふまふ。うしが。縁由を聞ゆ究めど。從
小あよ尋ねとも。彼ねるをち辨ふべれ。今宵直さふらうとして。不野の糸やへうち
うべ。と早々黒平推禁あ。さのを逼て失わよん。如此もふ流言え。這奴ホロ
ひよ疑ふべ。そのとれ撃げ一拳。と。綱五郎を後搏や挾むを教へ。小あく奪す。お
夜の駆引軍船、半晌が手裏よあう。各位へりとものか。隠牢ふ潜びゆく。その
隠牢も。と耳をもよ。漸くふきよれ。伍平太へりもよ。小賊亦潜びて。
天火入。火薬。隅田の汎橋渡。石濱のかまくら。案下某生再説綱

五郎ハ。その夜。さう十兵衛よ。小糸を委託て母屋よゆう。夕餐。ごくまども。う
寝。むかへ。背門と兩の。ゆう。椎と肩。十兵衛。戸と門立て。綱五郎。ふ
ぬり。そ。妹。旦。岡が。母。ふ。や。難。様。た。身。ひて。り。す。実。す。ん。今。叛。ふ
風。声。あ。う。ちん。お。け。ふ。只。入。圓。塚。山。よ。赴。そ。山。魅。を。徒。搏。す。山。魅
ホ。と。逐。ま。ひ。な。い。と。そ。こ。一。早。ア。里。の。為。う。め。し。に。は。飲。う。れ。ど。そ。の。職。す。民
ち。で。毛。を。吹。痴。を。走。ん。エ。ア。鳴。呼。よ。や。り。ん。醉。狂。す。仰。す。彼。山。魅。ホ。ハ。多。敵。の
癖。者。そ。不。意。を。奪。ま。そ。辟。易。と。と。も。争。恨。を。含。ま。ん。今。ふ。た。ぐ。み。み。あ。づ。
妻。を。娶。り。子。を。娘。ん。ど。う。み。の。つ。な。あ。で。そ。う。み。ま。ま。の。と。正。首。の。禮。が。
旦。闇。む。吹。て。う。ち。驚。た。猛。と。う。す。も。限。り。あ。、南。人。ハ。只。も。と。送。う。ゆ。る。と。送。へ
俗。よ。従。ひ。柔。私。ある。と。そ。と。う。さ。め。後。この。の。ゆ。る。ひ。ま。び。ぞ。や。り。る。歎。を。そ。う。と
り。や。と。ち。ん。引。が。う。の。も。あ。ひ。き。そ。些。ア。精。一。身。じ。と。酸。鼻。つ。り。う。と。あ。渴。を

言。家。の。理。よ。迫。と。れ。て。綱。五。郎。ハ。署。閣。て。嘆。息。ト。阿。翁。姨。母。の。教。刑。と。仇。ふ。と
つ。や。く。笑。福。す。あ。く。好。む。と。う。あ。う。只。名。の。為。人。の。為。う。身。と。頑。ぬ。く。淡。た。る
え。う。鳴。呼。あ。る。而。行。よ。仰。され。ど。向。徳。あ。う。被。七。あ。う。づ。き。よ。不。慮。の。る。あ。う
と。も。活。業。ひ。ま。で。も。あ。う。う。ん。あ。あ。も。ま。ぐ。く。ま。せ。エ。く。これら。素。ト。く。功。賈。ふ
き。う。果。ん。と。新。め。だ。と。う。す。も。そ。の。あ。う。な。よ。あ。う。某。終。角。ま。し。比。叙。又。公。作。
ふ。は。う。と。こ。そ。あ。れ。ひ。ー。こ。の。だ。方。ふ。豊。嶋。勘。解。由。左。衛。門。尉。平。信。盛。と。う。や。ん
ど。う。免。き。士。あ。う。う。管。領。よ。従。ひ。と。年。末。封。廩。を。争。ひ。宿。よ。そ。の。軍。遂。よ。利
あ。う。ど。才。練。馬。平。左。尉。つ。平。塙。圓。塙。一。族。り。う。と。主。従。と。び。三。百。騎。残。る。の。の
う。討。死。せ。う。そ。の。比。件。の。豊。嶋。駿。よ。椎。さ。子。ど。三。入。あ。う。太。郎。と。二。郎。ハ。あ。う。も。
敵。の。軍。兵。よ。生。拘。れ。二。郎。あ。う。う。の。辛。レ。て。乳。母。子。よ。ま。れ。本。貫。ア。坂。う。く
隠。ま。て。市。人。よ。す。レ。と。そ。こ。と。つ。が。爲。よ。祖。父。り。今。社。ヤ。も。う。う。ふ。ん。先。祖。ハ

名ある武士されば。血名を受ける獨五郎か。坊賈の所為を婦ひて。推定せよう
武藝を好む。猛く勇む。腕も脛も因縁あり。がくとて阿翁姨母の
教訓を口うく。吹て只管血氣も卓るふあらど。向後は自と愛へ。山ごろ休へ
いべ。と回答せよ。姉旦廻へ。十兵衛と面をあひ。入りまゝもあらうとけり。秋の
夜をぐら此彼の物語よそや。さて寝よとの籠又驚く。十兵衛の遠くがのぶ
宿所へゆく。結旦獨五郎は。まづアラハ為。圓塚山の麓よ集まる。里の壯俊
ホユ附さんと。巨六惣丁にて。彼ホセ里盡知る。酒樓よ聚合。酒飲せ物食て。
挂び暮と寝よ。衆皆山賊退治と祝して。蘿擦丸が勇敢と稱嘆。その夜さう
伍平太ホが。阿隅田河原のこゑ。まて。管領の兵士よ逐まと。のれ。のれ。の
やうも。そのとれ。巨六進と。か。大哥の吹き。ひどや。頃日。扇谷の管領。獨子
ひどく。つるみ。ひど。まことに。扇谷の管領。獨子。ひどく。ひどく。ひどく。
一族の兵士をもよれて。頃。又穿鑿あり。このとれ。彼山魅ホを。捕獲する。

かねあらば。いぬ月の中旬。管領。よろ。逐。もし。神原。ちり。犯人。又荷擔。て。扇
谷の兵士を砍殺。彼神原をわくて逃去する。辯者。あり。こま。を穿鑿せん。爲。又毎日
み兵士をもよる。伍平太ホへ。身のまみの異う。狂怪。あひ。拂ら。且て。とぞ。し
く。鳥夜。ま。翁。幸。して。河を渡りて。逃亡。みた。さて。彼器兵の大将。岩藤尾乃
右溝。つと。ひ。武夫。り。伍平太ホを。逐。捨て。放らん。と。うけ。吾们。を。呼。ひ。め。汝
ホが。送り。あつ。辯者。ひ。う。き。の。ぞ。と。叮。摩。ふ。向。じ。う。ば。う。大。哥。の。み。ま。い。が。
今逃去する。辯者。へ。山魅。ホ。も。ゆ。と。お。せ。う。岩。藤。ゆ。ゆ。も。あ。と。原。来。脛。も
す。と。罪。入。き。う。た。汝。ホ。既。よ。生。拘。り。が。と。管。領。の。館。へ。引。び。そ。の。盜。賊。を
捕。と。敵。圍。つ。主。従。脅。一。追。蒐。て。小。賊。二。千。餘。人。を。云。へ。駒。う。或。へ。索。を。被。され。せ
山魅。へ。も。逃。て。如。法。夜。の。ゆ。う。い。が。絶。て。そ。の。往。方。あれ。と。岩。藤。ゆ。へ。り。と。い。く。送
憾。う。り。ひ。う。じ。ど。今。又。御。み。けれ。小。賊。ホ。を。引。く。西。を。望。て。ゆ。う。も。ひ。れ。て。古。傳

のをうのぐ。食アトモナリ。被圓環の麓モ。管領家の兵士を殺アテテ。葬
者モ穿鑿セトキトシトナリ。誰アヒトアヒトモナラモ。俄頃ヨ風声ナキトシ。と
考リ。そ壁テ綱五郎ハ。吐嗟。とタミト。覺期のモ。モ。驢。モ。元氣。モ。外車。モ。吹
タ。酒。モ。果。モ。疎。育。モ。不。町。モ。途。モ。既。モ。思。念。モ。決。ツ。夜。モ。ス。ヤ。二。更。乃
太鼓。モ。不。旦。角。モ。臥房。モ。入。辰。モ。潛。モ。狭。七。モ。振。ル。被。風
声。モ。詠。ア。シ。管。領。モ。う。チ。モ。び。モ。穿。鑿。セ。ト。キ。リ。の。る。く。が。モ。モ。ヤ。モ。殺。れ
ガ。モ。み。づ。ク。名。モ。傳。モ。受。ン。ト。ハ。易。ど。モ。風。声。モ。驚。され。モ。モ。ク。モ。ハ。今。更。モ。思。慮。
ク。モ。な。モ。變。ス。ヨ。う。テ。タ。モ。ヨ。づ。新。モ。ビ。隠。モ。ト。モ。黒。平。ホ。ゲ。而。在。モ。索。尋。被。羽
鐵。モ。う。復。テ。和。駁。モ。こ。ト。モ。透。ト。モ。ヘ。諾。ひ。モ。背。く。ふ。御。ア。リ。諭。ト。ヨ。リ。ひ
つ。如。モ。和。駁。モ。この。婚。カ。モ。阿。總。モ。モ。妻。モ。モ。又。後。モ。ト。モ。聖。モ
モ。あ。テ。この。玉。紙。媒。モ。十。兵。團。モ。相。禪。テ。婚。姻。モ。モ。の。ビ。モ。う。内。モ。と。密。禪。モ。狹。七。モ

て驚嘆。其が死せりて。やがて勞。是れを庇覆。とあつたれど。彼
黒平とよしんが所在を定め。往方あれど。仇を索ねて。件の羽織
復をもとめ。埋木となる。其が阿容とて。家を続ひ。ちん身を罪にして。一日も
存命。以て圓謀の内。追捕の兵士を殺さる。罪まよ身。負て潔く名
をもん。おへ哥へ黒平が所在をあきらて。彼羽織を。もつ復して。管領へ進じ。そ
れより。被七首へ刎さる。絶て恨ひゆひ。又彼阿總刀。称せり。妻せん。といふ
を。嫌ふ。ある私ども。隠てよえある。もどく。かう。夫。捨て。小赤とも。女房
あり。いわゆる比縛捕の武士。因。まことに。殺す。う。生。とも。死せり。も。それ。ふ
も。ある。かの。せ。異。妻。を。あ。さ。な。て。今。ま。情。な。れ。よ。經。小赤。が。爲。よ。面。れ。所。殺
さ。う。此。彼。難。條。を。推。量。ア。そ。甚。を。死。タ。と。言。染。を。褐。て。推。辭。ど。も。綱。五。郎。ひ。詫。を
掉。妻。あ。入。ス。妻。を。か。き。ね。よ。と。ふ。ハ。鳴。呼。み。ん。理。る。凡。而。少。と。お。も。ん。が。ざ。

系本看虫言續卷之

卷之六

卷之三

四通



背くや。一文字の羽翼すにて。坂主へまよひかまや。意をとそと。と疏渝せば。
發せハ感涙おひゆど。が。あざと宣ひ。言のほへ推辞。にじと罪を免れむが。
さあやくもつまへ。おもてが隨意。ひても宣ひ。と。來く。巴綱五郎。たゞ
翌の夜のる。みどり。又町寧ふ相潭つ。きの。臥房ふ。入ふけり。かくて綱五郎。ひ
族旦十兵衛。日向。又對ひ。と。某儀頃。ふらひ。こゝ。近有並塗。す
だ。ト。び被れひ。あれ。速く。五年。運く。十年。ゆう。あく。日宣う。よ。
族七。こゝ。おまさん。ど。り。鳥。又。行馬の友。ひ。き。老實。り。巴綱五郎。え
る。遙。す。ト。う。ト。う。ア。リ。か。して。阿縫。せり。と。これ。妻。セ。糸。店。の。主。人。よ。う。そ。べ。
け。ハ。黄。通。吉。月。の。ふ。阿縫。や。も。こ。う。き。な。た。里。老。や。も。告。ま。し。形。が。う。り。う。婚
姻。の。准。被。さ。き。て。と。ど。よ。顧。り。そ。を。せ。ば。十。兵。衛。日。向。へ。面。ま。因。こ。の。子。が。生。平
え。他。け。う。く。て。阿縫。と。族。七。ふ。あ。く。せ。ん。ど。り。ふ。あ。く。必。情。由。う。ご。と。云。彼。小。糸。グ。や。え。を

り。と。阿縫。と。い。ぐ。せ。く。ら。ふ。こ。そ。と。率。企。え。い。つ。じ。ど。り。う。共。す。推。量。う。妾。時
敵。ハ。せ。ぞ。し。ぶ。十。兵。衛。の。眉。根。ギ。モ。醜。モ。阿縫。と。ち。ん。牙。の。妻。モ。ど。ら。ひ。よ。け。れ
妻。感。ら。べ。今。入。族。七。ネ。妻。ヤ。ス。と。り。う。と。せ。阻。モ。不。あ。く。び。ち。ん。牙。ハ。ち。家。が。愛。に。と
炎。火。を。要。う。り。商。人。の。而。為。是。モ。カ。ジ。と。豫。て。よ。う。り。う。る。族。七。と。ち。ん。牙。グ
チ。か。て。店。を。相。続。さ。せ。て。林。あ。る。か。わ。が。が。が。が。が。行。馬。の。友。う。と。も。が。の。人
こ。こ。あ。く。ひ。ひ。の。う。服。の。ひ。う。と。も。が。れ。そ。れ。も。う。腹。を。や。み。ぐ。く。る。心。を。ま。き。
り。よ。且。園。モ。小。膝。を。ま。り。世。の。往。昔。う。う。と。も。が。ん。身。の。杜。健。う。う。美
處。放。ま。う。て。人。へ。ひ。ひ。と。に。又。彼。阿縫。ハ。尼。不。あ。く。づ。宿。れ。あ。り。と。常。
ひ。う。の。被。木。ぐ。う。ハ。う。も。し。て。外。み。ま。え。老。あ。る。よ。べ。速。み。お。て。來。う。そ。う。能。ぐ。ぞ
ま。と。信。ま。く。打。合。撻。ハ。當。ら。ぬ。言。と。々。く。ど。も。且。く。受。て。形。を。改。め。向。を。娘
の。教。訓。ハ。口。苦。が。ぬ。良。素。き。い。も。人。お。り。あ。を。所。あ。づ。の。口。を。ま。止。う。と。

君の眞の使者あてだり。總と云ふせんとじ。告じて去るまじ。といひ
くと身を起し。六十兵備旦角へ在り。やうにとあくすでさひゆめ
あら。やう役七阿總木は緒の延を告げし。彼木が輒く承りばともかく
ち。といひゆつゝ十兵備へ役七を閑室へ拵へ寄て。件の事と後事まゝ幾七
素よろこひ氣紛れもあらず。既に昨夕緒五郎よりうへてあへば。難辭
せうて承る。のと見旦角の脣を入る處へ阿總を呼びて。緒五郎が媒妁
を今宵七十と婚姻と。そのまきんとあらず。叮嚀ふ説示せば。阿總へこれを
喰あく。多ひみあたとよゆ。この婚姻をうみまけべり。うるよ宣せ。婚
縁を推辞べ。ひひぐれとも行。希見る段築の延ぬこそ。うしくふ幸うれむと
拂て。ひひ移と。ひひぐれとも行。希見る段築の延ぬこそ。うしくふ幸うれむと
おきつうのと次の間。竊窓にて。緒五郎へ。亮隔丁と推因。且角が傷ふ
を素と坐。阿總へ何と云うる。取られ世を解下て。尼のうとうのう。が。
ひと去歲とうつぶ母よ養れと。改を別
ふ情由あん。被せと嫌ふてあるひや。又緒五郎が媒妁を。あくしとびよて歎。
と声高す。不意同きて。阿總の涙を押おひ。努めく人の徳もとびよて歎。
きもわく。じしもく。人よめうの。何をよそうか夫を嫌ひ。媒妁を嫌ふべた。が
ひぐれ情由ゆ。と回答もあり。ひび沈め。緒五郎へ嘆息。そいひひくれ情
由もあつさん。ひれも又ひぐれ。情由あり。あく。ひび沈め。緒五郎へ嘆息。そいひひくれ情
ひぐれの今般よろびて。ひび。ひじきのかなれ。実の妹とあひひして。ひび
ともひひ勧め。ひびとも勧め。腹こうやうに。ようち頭。こうもせん。身の為。
狭七が爲。家の為。情へ入のあらう。ひよ。ひよ。ほね婚姻。強面もどうれん。恨とも
うづけれど。一豆物をひひく。吾脩は元侠をよそにして。否や。わまん。有り

も。夜七が妻となりて下り、やがて瘦る肆さん。里より猪あり、商入されば、新
系の夜七と夫人よりの披着にて、里者もうみどり。近鄰人も駆す。夫婦
養子の名ひを、娘にと阿希が安堵の為めを以て。と言葉を惜せ。恩義の
掛あがむれて、阿総へあてび脱する道ある。まづ顧みず、一方死んといふを
え。ひかねりつれむと、野の趣みの井と涌かる涙と袖よ堰よ。ゆくやくふ
段を構す。娘死んで、諭うべ。まづ是はくが爲あり。ところて、今又、推辞
絶て言葉をほし。と、辨て仰る。そもそも宣す。背後待と、彦一郎。
獨立郎へかくおび。善いのそびといふ。娘に阿総よ化粧させ。髪を縛き
たり。とりふよ旦角へうち戻れ。阿総さうとも、若ひもひぬ。今宵はこの新婦。
假髮を濡て、人あらぬ。でこそ髪を結え。便室へゆきゆけ。彼外へまわせ。と
ひそぐて、徳引こうと。身を起つ。泣す。まことに。狂ふ獨立郎。

秋七と、ねて里者の宿所へ赴き。今、毛阿総と妻と、廬の間、不まろは。と、彼此へ告
告をほし。遠げ。不立つよ。十兵衛が、危丁。又甲夜の備の炙魚。早用が、をと
生盛膾の背越の鱈。鮮く。生るが、どく。もれども。死ぬる新婦。精進く。あら
花ね魚。入相の檻。不散。涙の跡の薬化粧。五即。是室と認じ。塵のうち
世の棊。相席。浮ぬ。夜七。迷惑と。座席の枝。拂ひ。物をり。夕暮。空を
瞻仰て。背門へ。坐り。ひだり。十兵衛が。宿所の口。どうするに。うが。と。もり。ふ。
うの声へ。内よう。まく。女子を。かく。且。小糸。夜七も。ちひく。ざれ。且
齋。且。飲。び。抑。かく。おひ。ほして。この如。よ。居。ゆ。ふ。と。齋。か。少。糸。酸。鼻。かく。おひ。悉
る。な。く。ひ。齋。嫁。かく。咬。く。ご。す。ま。う。つ。う。お。ま。う。く。つ。づ。や。く。お。う。け。ぶ。う。だ。
ま。く。ひ。嫁。かく。箇。様。と。伍。平。太。よ。奪。去。と。れ。て。圓。環。山。ま。数。月。を。送。う。獨。立。郎。
赦。ま。る。一。五。十。を。告。ひ。れ。ば。夜七。お。う。驚。嘆。し。ま。も。又。い。あ。た。獨。立。郎。の

庇役を受て。彼人の鄰もあつ。その夜、如此にしておちもろき物うさう。使者を
たゞる姫嫁九里。ひづくとひむすとひ。がまゆくお教す。誠によれげたゞゆ。
かん身をこゝよ隠す。これより後て言わせると強て阿總を妻する。これも挾むる爲
めの款別。情田あるのあつや。こまのがこうぬくに。といふを小糸へ替とがふ。今宵
母屋不婚姻あり。ど人の告げを仰うてねが外のものちひる。づきおはなやく
忘れん。ひづく特よまこと元のきよ愛香よ迷ひ。市入の女婿ふるうと。生涯
安よ送るとき。下の忠夫が不の字を冠け。心せらうどかほほへん。ひづく夫をそ
けい。と恨ごうつよと泣声ひとかる。くちくを當。猿故とあく反う。恨ぐれ
理るれど利よ恐ひ。色よ鶴見。商人の家を猶扶五郎とおひき。かん身もれせ
あるののみだ。ひよあくぬ妻をやまぬ。市人よおりしるも。獨五郎の扶助を得て。
文字の陣羽織を索むとさうぞのう。人よも媒妁りて。取次いふかん身の意。



綠櫻春蝶奇緣卷之七

